

日本教育メディア学会
学会通信第61号

学会ホームページ <http://jaems.jp/>

2013年1月8日発行

事務局

〒176-8534

東京都練馬区豊玉上1-26-1

武蔵大学社会学部

中橋雄研究室内

電話：03-5984-4792

E-mail：office@jaems.jp

目次

新春のご挨拶	2
故 高桑康雄先生を偲んで	3
『教育メディア研究』掲載論文等の著作権について(公示)	5
2012年度 第1回研究会報告	6
2012年度 第2回研究会報告	7
ワークショップ(1/26)のご案内 第3報	9
学会誌の編集状況および論文投稿について	11
ICoME2013のご案内	12
第7期第2回理事会議事録	14
学会費納入のお願い、入会者・退会者	15

新春のご挨拶

日本教育メディア学会 第7期会長 鈴木克明

謹んで2013年新春のご挨拶を申し上げます。新しい年が会員各位にとって実り多き年になりますよう祈念します。また、本学会が「もっと参加してみよう」と思えるような、意義深く、そして楽しい仲間の集いになりますよう、会員諸兄の積極的な参画をお願いします。

さて、挨拶のネタを探そうとまず行ったのはインターネット検索(そういう時代ですね)。「教育メディア」で検索してトップに表示されたのは本学会のWebサイトでした(安堵)。次がICOMEのページ(本学会Webサイト内)。今年は日本福祉大学で8月9-10日の開催が決まっています。三番目が日本教育工学振興会(JAPET)が提供している「教育の情報化」のための総合情報検索サイトで、その名称は「教育メディア・ナビ」。赤堀侃司JAPET会長の論考「教育課程とメディアの関わり」や文部科学省の動きをはじめとして、情報が満載のサイト。これは便利ですね。四番目が放送大学ICT活用・遠隔教育センターのオンラインジャーナル「メディア教育研究」のページ。2004年の創刊号から最新号の通巻第16号まで全論文が全文公開されています。本学会も、デジタルアーカイブを早く実現しなくてはとの思いを新たにしました。五番目は文科省のWebサイトにある10年ほど前の文部省生涯学習局長通知「新しい教育メディアを活用した視聴覚教育の展開について(報告)」の送付について。こんな古い情報が上位にランクされるのはいまだに頻りに閲覧されているためなのか、それとも頻りに見られているのは上位にランクされるからなのか。鶏と卵のような関係を想像しながら、検索エンジンの社会的影響に思いを巡らせたりしました。この通達には、ハイビジョンとかマルチメディアというあまり使われなくなった言葉が紹介されており、資料として当時のマルチメディア教材「文京文学館」の紹介もありました(なつかしい!)。それにしても10年前はすでに、隔世の感ですね。

研究が一段落したときに、あるいはこれからの研究を着想しようというときに、お世話になるのが検索エンジン。この1年で「教育メディア」というキーワードのみならず、本学会関連のキーワードの検索結果がどう変化するか。まずは変化前の実態を探ってみてはいかがでしょうか。

故 高桑康雄先生を偲んで

日本教育メディア学会 第7期会長 鈴木克明

本学会名誉会員で名古屋大学名誉教授の高桑康雄先生が2012年11月23日に死去されました。83歳でした。本学会への長年にわたる貢献への御礼として献花をお届けし、またご遺族のご希望により、告別式で本学会会長として弔辞を読ませていただきましたことを謹んで会員諸兄にご報告します。

高桑先生は、本学会の前身日本視聴覚教育学会が創設された1964年7月20日からの長きに渡り、名古屋大学時代は東海地区選出の理事として、また学会紀要の常任編集委員として学会活動を牽引されてこられました。1964年（昭和39年）といえば東京オリンピックが開催された年で、クーラー、カーと並んで新・三種の神器（3C）として喧伝されたカラーテレビ向けに放送のカラー化が進んでいました。その中で、高桑先生は欧米における視聴覚教育を調査され、教育改善における視聴覚メディアの役割についての報告を発表されました。また、1976年には当時の日本映画教育協会から『学校経営と視聴覚教育』を刊行されるなど、時代をリードされてこられました。

1980年代には、ぎょうせいから発刊された『メディア教育のすすめ』（全5巻）をまとめられました。「教育の世界では必ずしも重視されてこなかった、言語以外のメディアによってもたらされる情報をどう読み取るかを主題」とした新しい概念「メディアについて教育する」ことがどうということかを、とても分かりやすく説かれました。今日でも本学会で重要なテーマの一つである、メディアリテラシーの研究に先鞭をつけられました。

昭和の時代が終わりを迎えようとしていた1988年9月には、日本視聴覚教育学会の最後の学会長に就任され、2期6年間にわたり学会をリードされました。その間にも研究活動は衰えることなく、例えば、1991年度～1993年度には文部省科学研究費補助総合研究(A)の研究代表者として、「融合型マルチメディアの教育利用に関する研究」を統括されました。これは上智大学教授時代の研究業績でありました。

1994年7月には、最後の日本視聴覚教育学会長として当時、ともに年次大会を開催していた日本放送教育学会との合併を果たし、合併後の日本視聴覚・放送教育学会の初代会長に選出されました。1995年1月には新学会の紀要「視聴覚教育研究改題」『教育メディア研究』第1巻第1号が創刊されました。その巻頭において高桑先生は次のように述べられました。

「新しい学会として発足するにあたり、新しい地平を開き新しい課題に取り組んでゆこうとする志向が込められている、と言ってよい。放送教育、視聴覚教育を包含しつつ、それを超えたさまざまな課題がわれわれの研究の前にあることを意識しての命名であった。

(中略)

紀要の創刊にあたり、学会活動の本格化を心から喜ばしく思うとともに、この紀要が会員各位の研究にとってよい情報源となり、また情報発信、情報交流のメディアとなることを希うものである。

日本視聴覚・放送教育学会 会長 高桑康雄

こうして産声を上げた『教育メディア研究』は、その後、学会名を変更した本学会に引き継がれ、本年度で第19巻2号が刊行されるに至っております。年次大会も来年度で第20回の節目を迎えます。インターネット時代を迎え、また昨今ではソーシャルメディアだ、高機能モバイル端末だと教育メディア環境がさらにスピードを上げて変貌を遂げています。まさに高桑先生が予見されていた「放送教育・視聴覚教育を包含しつつ、それを超えたさまざまな課題がわれわれの研究の前に」存在します。この時代だからこそ、もう一度視聴覚教育の原点に立ち返り、高桑先生が切り拓いてこられた「メディアについて教育する」ことの重要性を踏まえて、これからの研究に邁進していかねばならないとの思いを新たにしています。

ここに高桑康雄先生のご冥福を心よりお祈りするとともに、高桑先生が切り拓かれた学会の火を絶やすことなく精進する覚悟であることを先生の御霊にお誓いし、哀悼の意を表します。

合掌

『教育メディア研究』掲載論文等の著作権について(公示)

2012年10月17日

『教育メディア研究』掲載論文等の著作権について(公示)

日本教育メディア学会会長 鈴木克明

日本教育メディア学会は、1994年の日本視聴覚教育学会と日本放送教育学会の統合以来『教育メディア研究』を刊行してまいりました。しかしそれ以前には、統合前の各々の学会において、1964年より『視聴覚教育研究』ならびに1971年より『放送教育研究』を刊行してまいりました。そしてさらには、各々の学会の前身におきまして、1954年より『視聴覚教育研究集録』ならびに1955年より『放送教育研究集録』を刊行してまいりました。この実績は、我が国における教育関係学会誌としては、最も長い部類に属するものと存じます。長きにわたり本誌を刊行できましたことは、ひとえに会員各位のご支援、ご協力の賜物と深く感謝申し上げます。

そこで本学会の発展ならびに日本の資産として、これまでの学会誌に掲載されたすべての論文(研究ノート、実践報告を含む)、書評、図書紹介、講演録等を国立情報学研究所が運営する論文ナビゲータ(CiNii)等で公開したいと存じます。論文等を公開するには、著作財産権が本学会に帰属していることが条件となりますので、これまでの本学会関係のすべての紀要の著作物につき、著作財産権のうち著作人格権は著作者に属するものとし、複製権と公衆送信権を運営機関が行使することを許諾していただきたいと考えております。しかしながら、創刊号に遡って、収録されているすべての論文等について、著作者にこの件について周知し了承を得ることは不可能に近いことと考えられます。そこで、この「公示」をもって、著作財産権(複製権と公衆送信権)の譲渡の許諾をお願いする次第です。

万一、この件に関しましてご了承いただけない場合、あるいはご不明な点がある場合は、2013年3月末日までに本学会事務局にお申し出ください。なお、お申し出のない場合は、ご了承いただいたものとし、公開する時期が参りました段階で論文を掲載させていただきますが、本公示を知る機会がなかった等の理由で掲載後にお申し出があれば善処させていただきます。

日本教育メディア学会の更なる発展のために、会員ならびに著作者各位のご理解とご協力をお願い申し上げます。

<本件に関する問い合わせ先>

日本教育メディア学会事務局

〒176-8534 東京都練馬区豊玉上1-26-1

武蔵大学社会学部 中橋雄研究室内

電話：03-5984-4792 E-mail：office@jaems.jp

2012 年度 第 1 回研究会のご報告

日本福祉大学 佐藤慎一

2012 年度第 1 回研究会が、日本福祉大学にて 10 月 13 日（土）に開催されました。大学、高等学校、小学校、企業等から 64 名の参加者が集まり、18 件の研究発表と、研究会テーマに沿ったシンポジウムが行われました。

前半に行われた研究発表では、国内外の学校と連携した活動、海外をフィールドとした体験型の学習など、本研究会のテーマと密接に関わる発表が全体の約半数を占めました。大学研究者に加え、国際交流等に実践的に取り組む高校教員、企業関係者等からの報告もあり、テーマについて多様な視点から考える機会になったように思います。これら以外で



は、協調学習、ソーシャルメディア活用、教科書における映像メディアの扱いなどに関連した発表が行われ、こちらも、示唆に富む興味深いものばかりであり、意見交換も活発に行われました。ハワイ大学の先生による英語での発表もあり、国際的な雰囲気も漂う研究発表となりました。

後半に行われたシンポジウムは、学内外での各種の経験がどのような学びに結びつくのか、また、それら経験を次のステップに繋げるために大切なことは何か、という問いを中心に進められました。宮田義郎先生（中京大学）からは、世界的ネットワークで展開されている World Museum Project について紹介いただき、そこでの事例を踏まえ、参加者の視野と志の拡大モデルが提案されました。岸磨貴子先生（京都外国語大学）からは、実体験時に高まる学習意欲が体験後にまで維持できない傾向にあることが紹介され、これを克服することも狙いの 1 つとする ICT を活用した越境学習の実践についてお話いただきました。影戸誠先生（日本福祉大学）には、長年続けられている実践からの知見を紹



介いただくとともに、コーディネータとしての役割も担っていただき、双方向的で会場との一体感のあるシンポジウムを運営いただきました。会場の方々からも、率直な疑問が呈され、また、登壇者とは異なる視点からの問いも投げかけられるなど、活気に溢れた充実の研究会となりました。ご参加いただいた方々に心より御礼申し上げます。

2012年度 第2回研究会のご報告

茨城大学教育学部 村野井均

2012年度第2回研究会が茨城大学教育学部で12月8日に開催されました。「教育メディアのこれから」を、テーマに午前中に6件の研究発表が行われ、午後は電子教科書の講演会とシンポジウムが行われました。

午前中に行われた研究発表は、情報コミュニケーション室で行われました。この部屋は、発表者のプレゼンテーションが、最寄りの電子黒板に映し出されるように作られた部屋です。座長の石川勝博（常磐大学人間科学部）のもとで、大きく分けるとケータイ小説や電子教科書、テレビ視聴の動向というメディア系の研究と日本語教育および教師論という2つの発表が行われました。中米コスタリカからの参加もあり、活発に議論が行われました。



午後は「電子教科書の現在—全国の教育実態をもとに—」という演目で、光村図書出版株式会社企画開発本部開発部長森下耕治氏に講演をしていただきました。佐賀県では教員採用に電子教科書が使えることが条件になり、教員養成の場でも、大学生への電子教科書・電子黒板の講習とその効果測定、大学教育における活用法やその効果を



研究する必要が生じています。

森下氏は国内の自治体の取り組みの状況と電子教科書の使い方を簡単にまとめたうえで「開発者の野望」を述べ、未来の教育観を語りました。電子教科書はその性質上、児童・生徒がカスタマイズするようになり、同じものではなくなるであろうと予測されます。難しいことを学びたい子どもはたくさんの資料をインストールするでしょうし、勉強が得意でない子にはふりがな機能や音読機能が有効でしょう。英文や物語文の読み上げスピードも、その子が自分の能力に合わせて行うようになるでしょう。つまり、従来の授業は45分の中ですべての子どもが同じ内容を学ぶことを目的に組み立てられてきましたが、電子教科書が導入されれば均質的学習はありえなくなるわけです。児童・生徒が学習を構成するようになるのです。まさにメディアが教育を変える「野望」を述べていただきました。「教育メディアのこれから」という研究タイトルにピッタリな講演でした。

続いて行われたシンポジウム「電子教科書をめぐる開発者と教育現場の対話」では、村野井均（茨城大学教育学部教授）が司会を行い、小川哲哉先生（茨城大学教育学部教授）が電子教科書の講習を行ったアンケート結果から、また、中島祐子先生（水戸市 ICT 指導員）が現職教員に講習を行う立場から、先生たちが電子教科書に何を求めているのかを述べて討論しました。

実は、教育現場が電子教科書に求める要望は、森下氏が述べた内容とほぼ一致しており、資料・ドリルのインストールと習熟度別使用、書き込みによる個人個人の教科書づくり、オープンエンドの学習での利用、ふり返りでの使用、ポートフォリオ化などでした。

討論では、来たるべき知識基盤社会に求められる学力観との類似や電子教科書が教育観・学力観の変更をもたらす可能性、教科書検定の意味など多岐にわたって意見交換がなされました。



ワークショップ(1/26)のご案内 第3報

日本教育メディア学会 編集委員会 久保田賢一

企画委員会・編集委員会の合同企画として、

「学習科学と教育メディア研究の接点を探る」ワークショップについてお知らせします。

日本教育メディア学会の編集委員会と企画委員会の合同企画「学習科学と教育メディア研究の接点を探る」ワークショップへの参加受け付け中です。学会ウェブページから申し込みをお願いいたします。定員になり次第締め切ります。

ワークショップには、静岡大学の^{大島純}先生をお招きして、学習科学に関する基礎的な事項について学ぶ機会を設けます。同時に、ワークショップでは、学習科学のアプローチを教育メディア研究に取り入れた研究を、^{遠海友紀}さん（関西大学大学院）、^{根本淳子}さん（熊本大学）、^{加藤由香里}さん（東京農工大学）、^{岸磨貴子}さん（京都外国語大学）に発表していただき、それらの研究発表について議論します。ワークショップで学習科学に関心を持った方には、来年度の特集論文「学習科学と教育メディア研究との接点」の学会誌の特集論文にふるって応募いただければと思います。

このワークショップは、教育メディア研究における新しい研究アプローチを模索するためのひとつとして考えておりますので、是非、多くの方に参加していただきたく思います。また、本ワークショップは、非会員の方にも参加いただけますので、関心のある方にも声をかけてください。

1. テーマ：学習科学と教育メディア研究の接点を探る

2. 日時：2013年1月26日（土曜日）午前10時から午後5時

時間	内容
9時半	受付開始
10時	開会、あいさつ、趣旨説明
10時20分	「学習科学を学ぶ」講師： ^{大島純} さん（静岡大学）
12時	昼食
13時	タイトル：ストーリー中心型カリキュラムのための学習環境の構築 発表： ^{根本淳子} さん（熊本大学）
13時30分	タイトル：ICTを活用した日本語教員養成のための学習環境デザイン： デザイン実践アプローチに基づいたデザイン原則の生成

	発表：岸磨貴子さん（京都外国語大学）
14 時	タイトル：国内外の日本語教師の専門的成長を支援する交流活動コミュニティの構築 発表：加藤由香里さん（東京農工大学）
14 時 30 分	タイトル：初年次教育におけるルーブリック作成を取り入れた授業設計 発表：遠海友紀さん（関西大学大学院）
15 時	休憩、館内見学
15 時 30 分	総合討議
17 時	閉会
17 時 10 分	懇親会場へ移動

参加費：2000円

懇親会費：5000円(ウェブで事前受付を行います)

3. 場 所：株式会社内田洋行 新川本社・新川第2オフィス

東京都中央区新川 2-4-7

会場までの地図：http://www.uchida.co.jp/seminar/121106_1107/access.html

4. 講師：大島純（静岡大学）

5. 内容：学習科学の基礎的なことについて学ぶとともに、教育メディア研究に学習科学のアプローチをどのように取り入れることができるか、ワークショップ形式で学習します。

6. 定員：35名（定員になり次第締め切ります。）

まだ、少し余裕があります。お早目の参加申し込みをお願いします。

8. 必読論文・図書

次の論文・図書を事前に読んでからの参加をお願いします。ワークショップは、これらの文献を読んだものとして進めていきます。

ワークショップ前に事前学習としてサイボウズ Live という CMS にてプレディスカッションをします。文献はサイボウズ Live 内でも閲覧できるようにしておりますので、もし、以下の文献が手に入らない場合は、サイボウズ Live からダウンロードをお願いします。サイボウズ Live に登録するには、edit@jaems.jp 宛にメールを送ってください。

サイボウズ Live でのプレディスカッションへの参加は、任意です。申し込みの際に、「備考欄」にて、「サイボウズ Live でのプレディスカッション参加希望」と追記してください。

すでに参加申し込みをされた方については、メールにてその意向を確認させていただきます。

大島律子・大島純・田中秀樹. (2002). CSCLを用いた高等教育カリキュラムのデザイン実験：知識構築活動を支援する学習環境の構築. 認知科学, 9(3), 409-423.

大島純・大島律子. (2009). エビデンスに基づいた教育：認知科学・学習科学からの展望. 認知科学, 16(3), 390-414.

白水始. (2012). V-8 デザイン・メソッド. 茂呂ほか（編）, 状況と活動の心理学：コンセプト・方法・実践 (pp. 262-265) .

益川弘如. (2012). デザイン研究・デザイン実験の方法. 清水ほか（編）, 教育工学選書3：教育工学研究の方法 (pp. 177-198) .

9. 担当者（問い合わせ）：日本教育メディア学会 編集事務局 関西大学 総合情報学研究科 久保田賢一 電子メール：edit@jaems.jp

10. URL

<http://jaems.jp/contents/kenkyukai/index.htm#workshop>

11. 了解事項

ワークショップの様子をビデオ・写真撮影をします。ウェブで公開をする予定ですので、ご了承をお願いします。不都合がある方は、事前に申し出をお願いします。

12. 協力

(株)内田洋行のご厚意で会場を利用させていただきます。

学会誌の編集状況および論文投稿について

日本教育メディア学会編集委員会 久保田賢一

現在、19号1巻の編集作業が終了し、印刷に入ろうとしています。1月下旬には、発送予定ですので、今しばらくお待ちください。19号2巻については、特集論文「ソーシャルメディアと子ども」の編集を進めています。

論文の投稿は、基本的には何時でも受け付けていますが、締め切りを示した方が良いという要望をいただきました。来年度から明確に年2回の締め切りを設定しましたので、論文執筆の計画を進めていただければと思います。

2013年5月10日 第1回締切

特集論文の募集を行います。テーマは「学習科学と教育メディア研究の接点」です。1月26日の企画委員会・編集委員会合同企画、「学習科学と教育メディア研究の接点を探る」研究会で発表された方が投稿しますが、それ以外にもこのテーマで論文を執筆される方は、ぜひ応募してください。

2013年10月30日 第2回締切

また、現在、査読システムサーバーを構築して、査読プロセスの効率化を図ろうと準備を進めています。準備が終了次第、逐次査読システムを使って、査読を進めていく予定です。詳細については、追ってご連絡させていただきます。

ICoME2013のご案内

開催期間・プログラム

2013年8月9日（金曜日） 10日（土曜日） 11日（日曜日）

8月9日 コンカレントセッション & ラウンドテーブルセッション

8月10日 コンカレントセッション & ラウンドテーブルセッション

8月11日 カルチュラル・スタディーズ、見学

開催場所

〒470-3295 愛知県知多郡美浜町奥田

TEL. 0569-87-2211

FAX.0569-87-1690

E-mail makoto@kageto.jp

テーマ

メディアを通じた国際連携（仮題）

日本教育メディア学会、韓国 KAEIM、中国 北京師範大学の連携のもと、ICoME2013を愛知県の日本福祉大学で開催する。「メディアを通じた国際連携」（仮題）をテーマとし、三カ国で10年間構築してきた国際的な「メディア教育研究」の枠組みの中で論議される。アジアにおける継続的な情報共有のあり方の重要性は日々高まっている。大学院生、学部生にも機会を与え、英語やメディアを通じた国際課題について発表させる。

コンカレント、ラウンドをあわせ120本程度の規模で行う。

運営 ICoME2013 実行委員会

構成 日本福祉大学 関西大学 目白大学 熊本大学 放送大学 東北学院大学
長崎大学

本部 日本福祉大学

協力 Panasonic 教育財団 内田洋行 日本文教出版 など予定

「 International Conference for Media in Education 」のホームページができあがりま
した。順次情報を載せていきます。

大会テーマ 「国際連携とメディアの役割」(仮題)

英語版 <http://icome2013.iwd.jp/index.html>

日本語版 <http://icome2013.iwd.jp/index-j.html>

発表までの日程は次の通りです。

4月30日 発表エントリーの締切 (タイトル、アブストラクト)

5月30日 採択結果の通知

6月30日 フルペーパーの提出締切

ラウンドテーブル

5月15日 発表エントリーの締切 (タイトル、アブストラクト)

6月15日 ペーパーの提出

7月15日 フルペーパーの提出締切

実行委員会の開催を行うとともに、近隣ホテルの部屋確保など進めております。

一般発表は15分の発表、5分の質疑応答、ラウンドテーブルは10分程度の発表、指導、検
討など10分を予定しています。

ラウンドテーブルは大学院生、学部生にとっては貴重な英語論文発表・英語プレゼンテ
ーションの場であり、交流の場でもあります。複数での英語プレゼンテーションも可能です。
多くの学生の参加を願っております。

実行委員会委員長 日本福祉大学 佐藤慎一
事務局長 影戸 誠

第7期第2回理事会議事録

1. 日時 2012年9月24日～2012年10月1日

2. 場所 会則第24条に基づく電子メールによる会議

3. 出席者

鈴木克明、黒上晴夫、小平さち子、浅井和行、生田孝至、稲垣 忠、インスン ジョン、宇治橋祐之、岡部昌樹、小柳和喜雄、影戸 誠、木原俊行、久保田賢一、後藤康志、佐々木輝美、佐藤幸江、下田昌嗣、寺嶋浩介、中川一史、永田智子、中橋 雄、堀田博史、堀田龍也、村上正行、村野井 均、豊田充崇

4. 協議事項

※会議に先立ち、会長より会則第24条に基づく電子メールでの会議開催に関する手続きの説明があった。理事は、各議案を承認することについての可否を1週間以内に返信することとした。

(1) 後援名義付与について

資料に基づき、会員より依頼のあった後援名義の使用を許可することが承認された。

(2) 後援名義付与手続きについて

今後、後援名義付与の申請があり、それが経費負担を伴うものではない場合、会長判断でその可否を判断・通知し、後日まとめて理事会に報告することが承認された。

以上

日本教育メディア学会 事務局長 (第7期)

中橋 雄 (武蔵大学)

◆ 学会費納入のお願い ◆

<納入のお願い>

2012年度(2012年4月1日から2013年3月31日)の年会費 7,000円(学生会員 4,000円 ※博士課程後期課程に在籍の方は、2011年度より学生会員に変更になりました。)が未納の方は、下記口座にお振り込みいただくか、郵便局備え付けの「郵便振替用紙」を用いて、納入いただくようお願いいたします。

なお、前年度までの会費が未納の方は、振込者名の後に年度を付加してお振り込みいただくか、郵便振替用紙に年度を明記の上、合わせて納入をお願いします。

<送金先>

ゆうちょ銀行 口座番号：14160-8658501 口座名：日本教育メディア学会 (ニホンキョウイクメディアガクカイ)	(銀行からの振込の場合) 銀行名：ゆうちょ銀行 店名：四一八店 (ヨイチハチン) 店番：418 預金種目：普通 口座番号：0865850
--	---

※他行からゆうちょ銀行への振り込み・・・店番 418・口座番号 0865850

※現金でゆうちょ口座へ振り込み・・・電信振込み請求書・電信振替請求書をご利用ください。(手数料 525円が別途必要となります)

※郵便貯金口座をお持ちの方は、ATMからの振り込みが可能です(手数料無料)。

その他、ご不明な点がございましたら、本学会の Web ページの「入金口座について」をご参照ください (<http://jaems.jp/contents/admission/account.htm>)。

【入会者・退会者】※敬称略

新入会員 (2名)・・・高橋 薫、小川哲哉

退会者 (1名)・・・坂元 多

会員総数 361名・17団体

名誉会員：3名

正会員：328名

学生会員：30名

団体会員：6団体

購読会員：11団体

(平成 24 年 12 月 28 日現在)

<p>日本教育メディア学会 事務局 〒176-8534 東京都練馬区豊玉上 1-26-1 武蔵大学社会学部 中橋雄研究室内 電話：03-5984-4792 E-mail：office@jaems.jp 学会ホームページ URL http://jaems.jp/</p>	<p>広報委員会 委員長 小柳和喜雄 (奈良教育大学) 副委員長 永田智子 (兵庫教育大学) 副委員長 村上正行 (京都外国語大学)</p>
--	--

(平成 25 年 1 月 8 日現在)